

## 地震火災

地震の時には、火災への注意も必要です。特に暖房器具を使う寒い時期や炊事の時間帯に地震が発生した場合には、火災による被害が大きくなることを過去の歴史が教えています。安政南海地震と昭和南海地震による火災の例をご紹介します。

### ■安政南海地震による火災（徳島県徳島市）

嘉永7年（1854）11月5日（新暦では12月24日）午後4時頃に南海地震が起きました。この地震により、徳島城下と勝浦郡小松島村で大火が発生しました。徳島では「内町の大火」が起こり、被害は焼失1,000戸、死者200人に及んだと言われています。徳島市沖洲の蛭子神社境内にある百度石には、地震時の火災について次のような趣旨の教訓が刻まれていました。……地震で家が潰れ、こたつやかまどより出火して、家や蔵の多くが焼けた。地震発生時には心を静めて火の元に用心することが肝要である。……<参考資料：沖洲地区文化おこし委員会編「わが町沖洲」1990年など>

※百度石の碑文は今では風化により判読できない部分があるため、横に標識が立てられています。



### ■昭和南海地震による火災（高知県四万十市）

昭和21年（1946）12月21日午前4時過ぎ、南海地震が起こり、中村町（現四万十市）では全町2,000余の家屋がほとんど全半壊し、死者が278人に及ぶなど大きな被害を受けました。地震直後、本町、中ノ丁方面で火災が発生しました。消防団が直ちに出勤したものの、倒壊家屋が街路を塞ぎ、水道が破損するなどして消防活動は困難を極め、66戸が焼失しました。夜明け前のため火気を用いた家庭は少なかったものの、中村町では自動車用燃料やこたつの残り火などが出火原因となったようです。四万十市の為松公園に建立されている南海大地震記念碑には、中村町の被害が特に大きかった要因として地盤が軟弱であることが記されています。<参考資料：中村町役場編「中村町史」1950年及び南海大震災誌編纂委員会編「南海大震災誌」1949年>

